

防災ラジオドラマ

グループ 「江戸川女子中学校放送部」

タイトル 「過去からのおくりもの」

出演

りさ：中学三年生

はるか：小学三年生。りさの妹。

母：りさとはるかの母。

らら：りさとはるかを助ける、謎の女の子。

シーン1 朝

雨の音。母の電話の声。

母 「こんな天気だもん。りさもはるかも学校から電話があって自宅待機だって。うん……
そうそう、来週ゆっくり帰ってこれればいいじゃない。……じゃ、そういうことで。は
いはーい。」

電話を切る音。

りさ 「お父さん、やっぱり帰って来れないんだね。」

母 「新幹線止まってるもんね。」

はるか 「デイズニールランドもなし？」

母 「いいじゃない一週間くらい。あ、じゃ、行ってくるね。」

りさ「台風じゃ会社休みにならないんだね。」

母「まだ電車で動いてるもの。じゃ、行って来ます。」

りさ・はるか「行ってらっしゃーい。」

ドアが開き、閉まる。

りさ「学校休みな人で超ラッキー！」

はるか「毎日台風来ればいいのにね！」

りさ「よし、今日はゲームし放題だ！」

シーン2 昼

雨の音が強くなる。

はるか「お姉ちゃん、お姉ちゃん！ ヘッドフォンとってよ。」

りさ「あんたのゲームの音がうるさいからじゃん。」

はるか「外見て、すごい雨だよ。」

りさ「だって台風だもん。あたり前じゃん。」

街の防災放送。ゲームの音でよく聞こえない。

はるか「外の放送で何か言っていない？」

りさ「うるさいな、黙ってよ。」

消防車のサイレン。やはり拡声器で何か叫んでいる。言葉ははっきりしない。

はるか「こんな雨なのに火事なのかなあ。」

玄関のチャイムが鳴る。

らら「こんにちは！りさちゃん、いるんでしょう。」

りさ「はい、何でしょう。」

らら「何やってるのよ！江戸川が氾濫しそうだって大騒ぎなのに。」

りさ「そうなんですか。でも、江戸川の水が増えたって、土手を越えることなんてないでしょ。」

らら「ちゃんとテレビを観てよ！おじやまします！」

ドタドタと廊下を歩く音。

りさ「ちょっと待って。」

はるか「あの人誰？」

りさ「わかんない。」

はるか「知らない人勝手に入れちゃだめってお母さんが言ってたよ。」

テレビが点く。ニュース。

キャスター「繰り返します。葛飾区、江戸川区、松戸市、市川市に緊急避難指示が出ています。

特に葛飾区、江戸川区側のみなさんは警戒が必要です。金町の堤防修復工事個所

からの決壊が懸念されています。」

りさ「うちの近くだ。」

はるか「お姉ちゃん！電話、『混み合ってます』って言ってる！携帯でお母さんに電話して

よ！」

りさ「ちよつと待って・・・だめだ、こつちも使えない。」

はるか「どうしよう！お姉ちゃん怖いよ。津波みたいになるの？」

りさ「逃げるって、どこに行けばいいんだろう？」

らら「りさちゃん、もう家を出るのはやめて。」

りさ「何で！津波の時にすぐに逃げろってテレビで言ってたじゃない！」

らら「津波と氾濫とでは、水の種類が違うのよ。」

りさ「だって避難指示が出てるって！」

らら「こんな中、歩く方が危険だよ。もつと早い時に避難しなくちゃ。大事な物を持って二階

へ上がって。」

らら「避難袋の中確認しよう。」

りさ「えっと、乾パン、水、救急セット、ラジオに懐中電灯。そんな感じかな。」

らら「防寒着もある？」

りさ「うん。」

らら「大丈夫だね。」

はるか「本当に大丈夫？」

らら「ここから川までは少し距離があるし、周りより少し高い所にあるから、決壊しても家が

押し流されるほどじゃないと思う。」

りさ「何でそんなことわかるの？」

らら「電柱に何メートル書いてあるでしょ。」

りさ「見た事無い。」

らら「小学校で習ってたじゃない！」

はるか「お母さん、大丈夫かな。」

らら「千代田区は大丈夫だと思う。」

りさ「ねえ、今更ごめんね。あの、どちら様でしょう。」

らら「私の事、わからない？」

りさ「お母さんのお知り合い？」

らら「私はりさちゃんの最初の友達よ。」

りさ「えっそうなの！ ごめんなさい！ 幼稚園？」

らら「わからないんだ……。」

りさ「……ごめんなさい。」

らら「いいよ！ 仕方ないもん。」

はるか「あ！」

キャスター「江戸川の堤防が決壊した模様です。繰り返します！ 江戸川の堤防が決壊しました。」

はるか「お姉ちゃん！」

りさ「はるか！」

らら「大丈夫、大丈夫だからね。」

はるか「ねえ道路すごい水だよ。」

らら「一階は浸かるかもね。」

何かが家にぶつかる音。

りさ「何？」

らら「流された物がぶつかったみたい。」

はるか「家が壊れちゃったらどうしよう……。」

はるかの泣き声。

雨の音。

らら「雨、弱くなってきたね。」

りさ「逃げられるかな。」

らら「無闇に外に出ちゃだめ。レスキューの人が来るまで待って。水が引くかもしれないし。」

りさ「何日もこのままなの？」

らら「わからない。」

はるか「お母さんに会えないの？」

らら「会えるよ。諦めなければ大丈夫。」

りさ「テレビが切れちゃってる・・・停電だ！」

らら「ラジオがあるでしょ。」

りさ「あ、そうか・・・何か、だめだね。焦っちゃうと何もわからなくなっちゃう。」

らら「だから落ち着いて。お父さんもお母さんもないんだよ。りさちゃんのはるかちゃんを

守るんだからね。

りさ「そうだね。」

はるか「暗くなってきたね。」

りさ「ろうそく点けようか。」

らら「朝までもつ？」

りさ「震災の時にたくさん買ったから大丈夫。」

シーン3 夜

りさ「一階は水に浸かっちゃったね。」

らら「でも、水はこれ以上上がってこないみたい。」

はるか「雨やんだよ。」

りさ「わー、外真っ暗。電気が無いと、こんななんだね。」

りさ「もう十二時過ぎてる。」

らら「はるかちゃん寝ちゃったね。」

りさ「たいした根性だよ。」

らら「りさちゃんも寝ていいよ。」

りさ「眠くなんかならないよ。」

らら「じゃ、話しよう。そうだなあ、りさちゃんは将来何になりたいの？」

りさ「え、何か突然だなあ。」

らら「そうかな？」

りさ「うーん・・恥ずかしいから、そっちから先に教えてよ。」

らら「えー私はりさちゃんのが知りたいの。お願い、教えて！」

りさ「誰にも言わない？」

らら「絶対言わない。」

りさ「絶対？」

二人の会話、フェードアウト

シーン4 翌日

鳥の声。

りさ「いい天気。水、すごいなあ。」

らら「私、もう行くね。」

りさ「あなたは外に出ても大丈夫なの？」

らら「外には行かないよ。」

りさ「どこに行くの？」

らら「久しぶりに話が出来て嬉しかった。いつまでも元気でね。」

りさ「待って！名前を教えて！」

らら「らら。」

りさ「ららー！」

りさ（独白）「お父さん、お母さんと連絡がとれて、お母さんと避難所で会えた。江戸川区が水浸しになる災害だった。江戸川が氾濫するなんて考えた事もなかった。逃げる場所や連絡のとり方など、家族で話し合わなくちゃだめだと思った。避難袋にアルバムが入っていた。何気なくページをめくった。小さな私が、ららと同じワンピースを着た人形を抱いていた。」